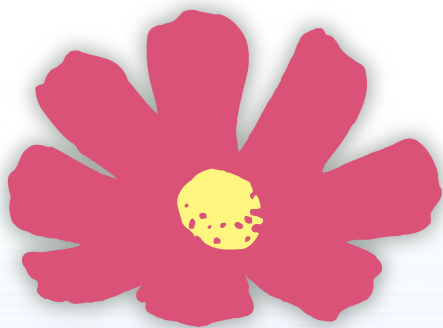




2012 REPORT

千葉興業銀行レポート

ミニ・ディスクロージャー誌

第90期 営業のご報告

平成23年4月1日～平成24年3月31日

目 次

ごあいさつ・企業理念.....	2
経営方針	3
営業の概況	4
地域コーナー	9
CSRの取組み	11
トピックス	17
財務諸表	19
役員・株式の状況	21

当行の概要 (平成24年3月31日現在)

設 立：昭和27年1月
本 店：千葉市美浜区幸町二丁目1番2号
資 本 金：579億4,189万3,949円
従業員数：1,270名



[ちば興銀は、次世代認定マークを
取得しています。]

ごあいさつ



平素より、千葉興業銀行をお引き立て賜り、誠にありがとうございます。

当行は、平成24年3月3日、おかげさまで創立60周年を迎えることができました。地域の皆さま方からのあたたかいご支援、永年に亘るご愛顧に、役職員一同、心より感謝申し上げます。

このたび平成23年度の当行の経営内容や業績、CSRの取組み等をミニ・ディスクロージャー誌としてまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

当行では、平成23年4月より中期経営ビジョン『ちば興銀“変革・成長”戦略』に基づく戦略施策を積極的に展開しております。昨今の経済情勢を鑑みると、東日本大震災の影響から持ち直しの動きが見られるものの、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあります。このような時こそ千葉県経済の力強い回復に向けて、創業の精神（「県内中小企業の親切的な相談相手たらんことを期する」）に立ち返るとともに、「地域の お客さまの ベスト・コンサルタント」さらには「選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行」をめざし、当行グループの総力を結集して業務に邁進していく所存です。

今後とも、より一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成24年6月

取締役頭取・CEO 青柳俊一

企業理念

地 域 と と も に

私たちは、地域とともに歩む銀行として、人々の幸せを求めて、豊かなふるさとづくりに努めます。

お客さまのために

私たちは、積極的にお客さまのニーズに応え、創造性を発揮し、より質の高いサービスの提供に努めます。

「親 切」の 心 で

私たちは、心のふれあいを大切にし、自己を磨き、親切ナンバーワンをめざします。



経営方針

経営方針

平成23年度、平成24年度の2か年におきましては、中期経営ビジョン『ちば興銀“変革・成長”戦略』に基づき、経営課題である「トップライン収益の極大化」と「持続的成長基盤の構築」の実現に向け、「顧客ロイヤルティ向上戦略」を経営戦略の根幹とした具体的施策に取り組んでおります。今年は、この取り組みの仕上げとなる重要な年となります。全行員・スタッフが一丸となって業務に邁進し、「地域の お客さまの ベスト・コンサルタント」さらには「選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行」をめざしてまいります。

企業理念 地域とともに お客さまのために「親切」の心で

当行のあるべき姿(10年後)

選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行

“ちば興銀ブランド”の確立

当行のめざすべき姿(5年後)

地域の お客さまの ベスト・コンサルタント “ちば興銀”

“ちば興銀ブランド”の発現

平成23-24年度中期経営ビジョン

『ちば興銀“変革・成長”戦略』トップライン収益極大化と持続的成長基盤の構築

“ちば興銀ブランド”の創造
相談対応力・課題解決力を持ち、
真摯・親身にお応えする銀行

顧客ロイヤルティ向上戦略

顧客基盤・収益基盤の強化

1 新たな顧客・収益の創出に向けた取組み

- ロイヤルカスタマーの拡大・増強
中小企業(オーナー)、地権者、金融資産富裕層に対する取引推進強化
- 顧客ニーズ基点の営業態勢強化
- 強固かつ中長期的な顧客リレーションシップの構築
- 「個人」への営業展開の強化

2 顧客接点の継続性・持続性を高めるための取組み

- 顧客満足度(CS)の向上
- 顧客対応力の向上
- 顧客サービスの向上

3 当行「強み」のさらなる強化のための取組み

- 地域密着型金融の恒久的な取組み
経営改善・事業再生に向けたコンサルティング機能の発揮
- 成長基盤分野・事業への支援強化
「医療・介護・福祉」「農業(アグリ)」を重点とする支援強化

人材・組織基盤の強化

1 コンサルティング能力の向上

- コンサルティング人材の育成・強化
- コンサルティング機能提供態勢の強化

2 人材育成と組織力の強化

- 自律型人材育成等の強化
- 組織活力・体制の強化
- 業務改善・効率化への取組み強化
- 創立60周年記念事業の展開
- みずほグループ・アライアンスの活用強化

3 経営体質の強化

- リスクマネジメントの強化
- 強固なコンプライアンス態勢の構築
- コスト管理高度化体制の強化
- 財務体質の強化、外部評価改善への取組み強化
- 株主・投資家リレーションシップの強化



営業の概況

グラフ等に記載の計数および解説文中の計数は単位未満切捨て表示となっております。

預金・貸出金の状況～預金・貸出金は堅調に推移～

総預金の当期末残高は、平成23年3月末比608億円増加し2兆1,239億円となりました。個人預金については、＜60周年記念定期預金＞「60定期(ろくまるていき)」等がご好評いただき、前期比339億円増加し1兆6,812億円となりました。

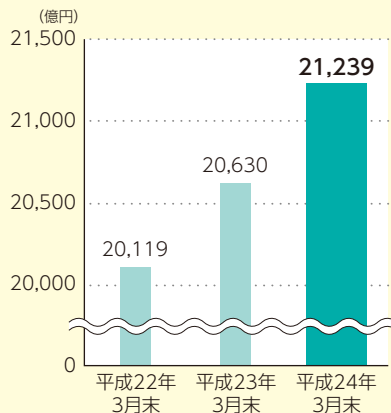
投資信託販売は堅調に推移いたしましたが、単位型投資信託の償還の影響もあり、投資信託残高は、平成23年3月末比140億円減少し、1,134億円となりました。

お客さまのニーズに沿った商品提案により、年金保険残高は平成23年3月末比24億円増加し、564億円となりました。

当期末の貸出金残高は、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えし、コンサルティング機能の強化に努めた結果、平成23年3月末比492億円増加し1兆6,161億円となりました。住宅ローンについては、住宅販売会社等との連携強化、相談会開催等によりお客さまの借換えニーズに積極的に取組んだ結果、平成23年3月末比216億円増加し5,189億円となりました。

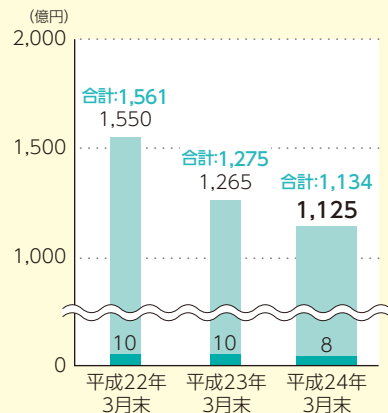
総預金残高

※総預金残高には譲渡性預金を含めております。

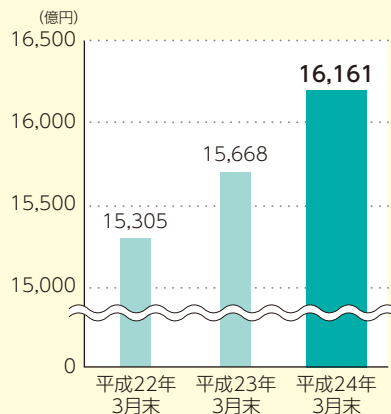


投資信託残高

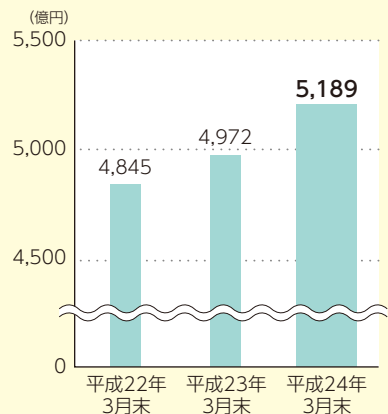
■ 株式投信 ■ MMF



総貸出金残高



住宅ローン残高



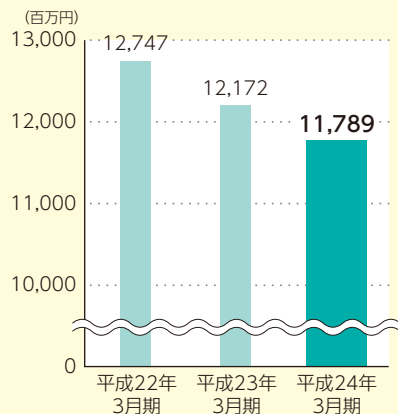
損益の状況

貸出金残高は増加いたしました
が、貸出金利回りが低下したこと
により貸出金利息が減少し、有価
証券利息配当金も減少したこと
から資金利益が減少いたしました。
保険窓販商品の取扱増加による
役務取引等利益が増加し、また
経費が減少したものの、コア業務
純益^(※)は前期比2億2百万円減少し、
116億81百万円となりました。また、
厳しい経済状況のなか、お取引先
企業への経営改善支援の取組み
や与信管理の徹底による新規不良
債権の発生防止に努め、貸倒償却
等が減少したことに加え、当期
より償却債権取立益が特別損益
から臨時損益へ計上区分が変更
になったことから、経常利益は前期
比22億43百万円増加し90億
32百万円となりました。特別損益
は、上記計上区分の変更により
前期比18億61百万円減少とな
りました。これらにより、当期純利益
は前期比84百万円増加し、77億
16百万円となりました。

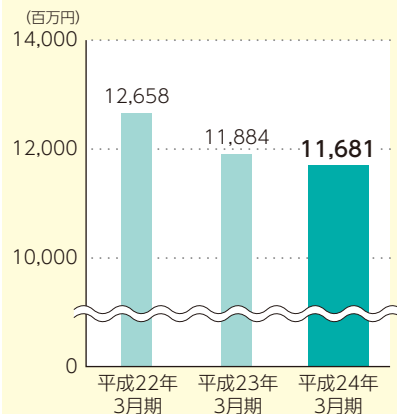
※コア業務純益

業務純益から一般貸倒引当金繰入
額、国債等債券関係損益を除いて
算出しております。

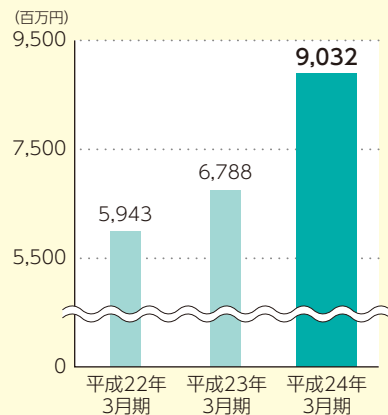
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）



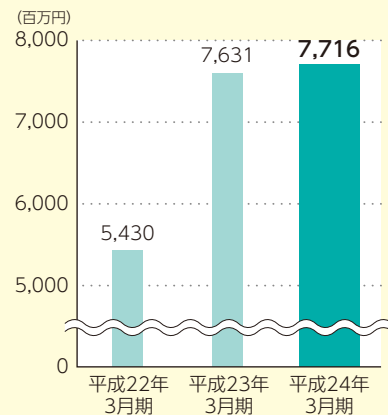
コア業務純益



経常利益



当期純利益

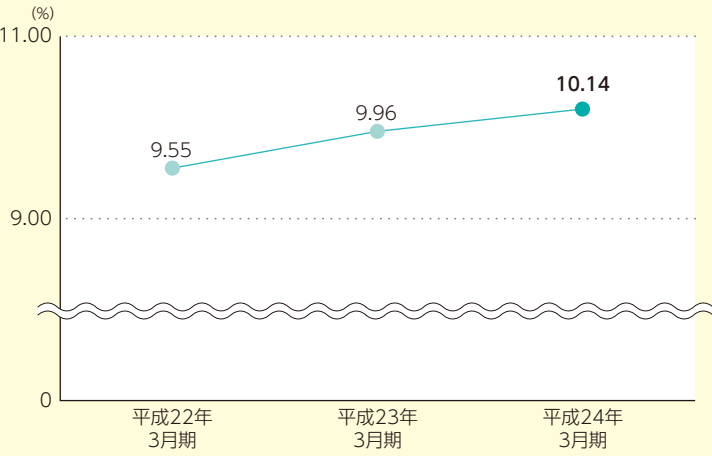


自己資本比率等

平成24年3月末の自己資本比率は、当期純利益77億円の計上等による基本的項目の平成23年3月末比64億円増加などにより、平成23年3月末比0.18ポイント上昇し、10.14%となりました。

また経営の効率性を示す経営指標であるコアOHR^(※1)は、コア業務粗利益(除く国債等債券関係損益)の減少により67.55%と前期比0.15ポイントの上昇となりました。また収益性の高さを示すROA^(※2)は、コア業務純益の減少により0.51%と前期比0.02ポイント低下いたしました。

自己資本比率



※1 コアOHR
(経費対コア業務粗利益率=経費÷コア業務粗利益(除く国債等債券関係損益)×100)
一定の業務粗利益を得るために、どの程度経費がかかっているかを表す指標で、値が小さいほど経営の「効率」の高さを示しています。

※2 ROA《コア業務純益ベース》
(総資産利益率=コア業務純益÷総資産期中平残(除く支払承諾見返)×100)
投下された総資産が利益(コア業務純益)を得るために、どの程度効率的に利用されているかを表す指標で、値が大きいほど経営の「収益性」の高さを示しています。

自己資本比率算定明細表

(単位:%・百万円)

	平成23年3月末	平成24年3月末
1.自己資本比率	9.96	10.14
2.基本的項目	120,745	127,223
3.補完的項目	10,243	8,255
(イ)うち自己資本に計上された再評価差額	-	-
(ロ)うち劣後ローン残高	5,500	5,500
4.控除項目	196	193
5.自己資本 2+3-4	130,792	135,285
6.リスクアセット	1,312,192	1,334,005
うちオン・バランス	1,216,828	1,243,046
うちオフ・バランス	25,611	22,383
うちオペレーショナルリスク	69,752	68,575

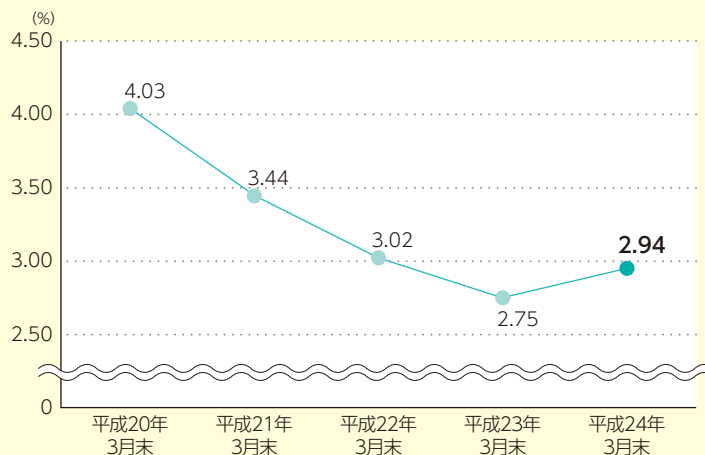
経営改善支援の取組み等

「中小企業金融円滑化法」の趣旨を踏まえ、全営業店への「ご返済相談窓口」の設置、ローンプラザ等で休日相談に対応するなど、従来以上にお取引先の資金繰り下支えとともに、お取引先企業の経営課題の把握・分析を踏まえ、適時に最適なソリューションを提案する等、コンサルティング機能の発揮により、経営改善・事業再生支援に積極的に取組んでまいりました。

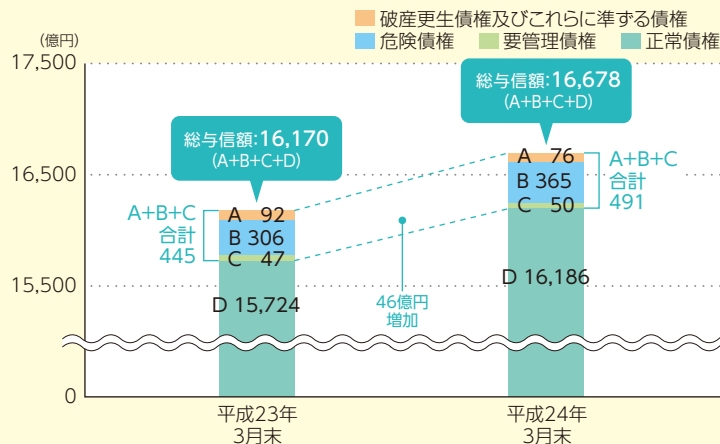
しかしながら、東日本大震災や慢性的な円高等、県内企業を取り巻く経営環境は厳しく、平成24年3月末の金融再生法における「開示債権額」は、平成23年3月末比46億円増加し491億円となりました。総与信に占める割合（開示債権比率）は、平成23年3月末比0.19ポイント上昇し2.94%となりました。

今後も、経営コンサルティング会社等外部専門機関の活用も含め、お取引先企業に対する経営アドバイス、経営改善計画策定支援への取組みを強化してまいります。

金融再生法に基づく開示債権比率



金融再生法に基づく開示債権額比較



格付け

当行は、中立的な第三者による評価を取得し公表することで、投資家の皆さまやお取引先の皆さまに財務内容の健全性や収益性などについてご理解いただくため、平成18年10月に株式会社日本格付研究所(JCR)から長期優先債務(※1)格付けを取得し公表しております。平成23年10月に見直しを行い以下のとおりとなっております。

格 付 け 「BBB(トリプルBフラット)」[据え置き]

格付け見通し 「ポジティブ(※2)」[「安定的」より変更]

(格付けの公表:平成23年10月4日)

※1 長期優先債務:格付対象会社の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

※2 長期優先債務格付けが中期的にどの方向に動き得るかを示すもので、今後格上げの方向で見直される可能性が高いことを示します。

利益分配に関する基本方針

当行は、銀行業としての公共性を鑑み、健全経営を確保するため内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当に努めていくことを基本方針としております。

優先株式の配当 当期の優先株式の配当につきましては、所定の配当をいたします。

普通株式の配当 当期の普通株式の配当につきましては、見送らせていただくことといたしました。
普通株式の株主の皆さまには、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

株主優待制度の拡充

日頃のご支援に感謝の意をこめて、ご優待制度の拡充に努めております。平成24年3月31日現在で千葉興業銀行の株式を100株以上所有されている個人・法人の株主さまを対象に「株主優待定期預金」の制度を引続きお取り扱いいたします(平成24年7月実施予定)。従来の株主優待制度である「さわやかハロー24」(※)ともども、ご利用いただけますようお願い申し上げます。

※「さわやかハロー24」

当行の株主さまに無料で、健康や医療に関するご相談をベテランの医師などが電話でお受けするサービスです。健康・医療相談のほか、夜間・休日診療の医療機関ご案内、医療機関情報のご提供、介護などシルバー情報のご提供についてご利用いただけます。



地域コーナー

地域のお客さまとのお取引の状況

当行では預金の大半を地域のお客さまからお預かりしております。

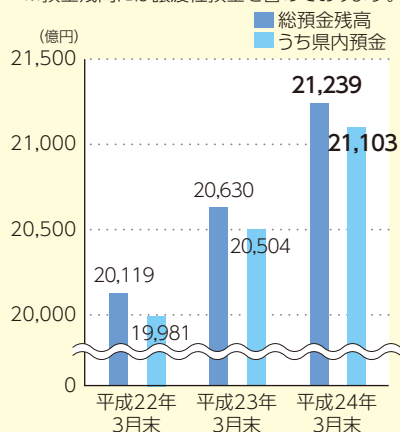
そしてこの大切な預金を県内の企業や個人のお客さまへの貸出に向けております。

また、平成24年3月末の県内保証協会保証付貸出金は、11,365件の1,524億円となっております。

(注) 当行は主要な営業地域を千葉県内としておりますので、千葉県内の営業店舗の合計計数を「県内」計数として表示しております。

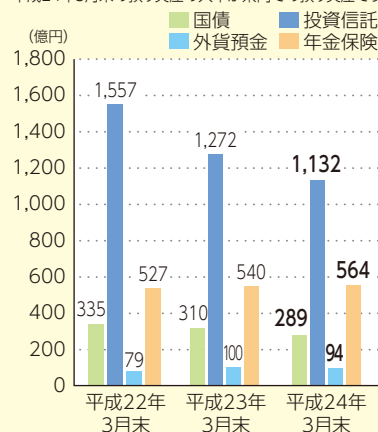
預金残高等

※預金残高には譲渡性預金を含めております。

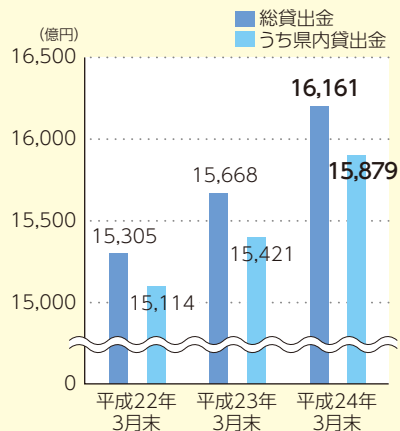


預り資産残高

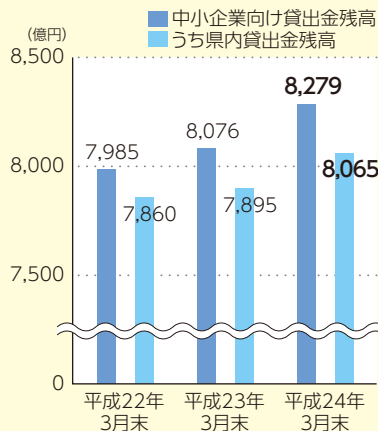
平成24年3月末の預り資産の大半が県内での預り資産です。



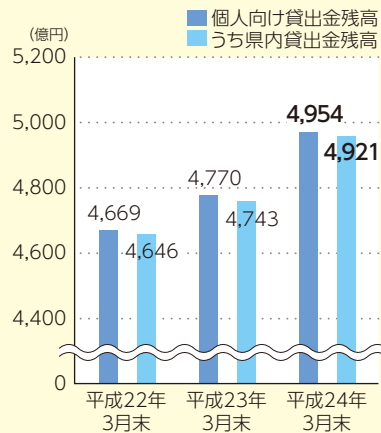
貸出金残高等



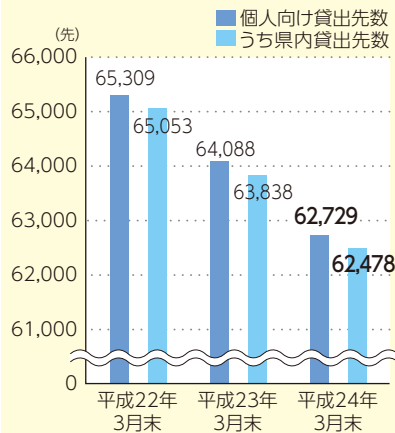
中小企業向け貸出金残高等



個人向け貸出金残高等

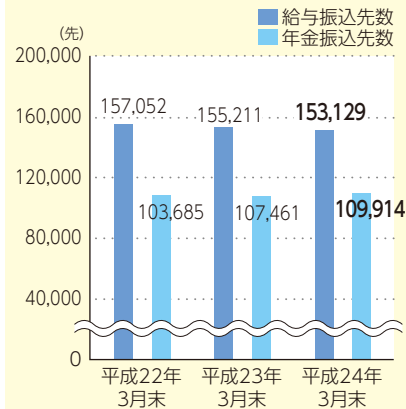


個人向け貸出先数等



給与振込・年金振込の口座数

給与振込や年金振込などについても、多くのお客さまのご利用をいただいております。



業種別貸出金残高

当行は、それぞれの業種において、資金供給者として重要な役割を担っています。

(単位:億円)

平成24年3月末	貸出金残高	うち県内向け
製造業	1,683	1,631
農業、林業	44	44
漁業	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業	29	29
建設業	853	851
電気・ガス・熱供給・水道業	71	71
情報通信業	51	49
運輸業、郵便業	646	642
卸売業、小売業	1,893	1,858
金融業、保険業	562	561
不動産業、物品賃貸業	3,447	3,310
各種サービス業	1,660	1,641
地方公共団体	262	262
その他	4,954	4,922
合計	16,161	15,879



CSRの取組み～地域社会・地域経済への貢献～

当行の経営理念である「地域とともに」「お客さまのために」「『親切』の心で」の実現に向け、地域社会の活性化と持続可能性を高めるための活動を行っております。

東日本大震災に対する取組み

復興に向けた取組み

東日本大震災により被害を受けられた被災者の皆さまに対しまして、心よりお見舞い申し上げます。当行では、東日本大震災により千葉県の経済活動が様々な影響を受けるなか、被害を受けられた皆さまの災害復旧等にお役立ていただくために、様々な取組みを行っております。

■「災害復旧支援ローン」の取扱い（取扱期間：平成23年3月18日～平成26年3月31日）

災害復旧にかかる住宅関連資金（土地・住宅の購入、新築・改修資金等）

■ 災害復旧支援資金「頑張ろう！千葉」の取扱い（取扱期間：平成23年3月18日～平成25年3月29日）

災害復旧に伴う事業資金（運転・設備）＊詳細については、お近くのちば興銀窓口までお問い合わせください。

その他、全店舗に「東日本大震災関連ご融資相談窓口」を設置し、ご相談を承る体制を整備しております。「特別相談会」も実施いたしました。収益金の一部が東日本大震災の復興支援の一部に役立てられる「東日本大震災復興支援グリーンジャンボ宝くじ」の店頭販売を実施いたしました（取扱期間：平成24年2月14日～平成24年3月14日）。

また、県内被災地の復興等に役立てていただくため、当行及び関連会社役職員から義援金を募り千葉県災害対策本部等へ寄付いたしました。

「がんばろう千葉」キャンペーンへの取組み ～「がんばろう千葉応援隊」に参加～

当行では、千葉県経済の活性化を応援する様々な取組みを行っております。

千葉県が実施する「がんばろう千葉」キャンペーンおよび「がんばろう千葉応援隊」の趣旨に賛同し、法人として応援隊に加入しております。

■ <がんばろう千葉>定期預金チーバくん定期の販売&寄付金を贈呈（販売期間：平成23年6月1日～7月29日）

お客さまにお預入れいただいた定期預金の残高に応じて、当行が千葉県災害義援金へ寄付（※）を行う定期預金を発売いたしました。大変ご好評をいただき、平成23年8月10日に、約360万円を千葉県災害義援金に寄付いたしました。

※寄付に関してお客さまのご負担はございません。



■「がんばろう千葉」千葉県産品応援キャンペーンの後援

(実施日:平成23年5月3日～5日)

館山道市原サービスエリア(上り車線)で開催した、千葉県産の生鮮食品、農水産加工品他のPR及び販売に関するイベント(「がんばろう千葉」@館山道 市原SA)を後援いたしました。



■「がんばろう千葉 宿泊施設利用特別補助金制度」を実施

(実施日:平成23年6月10日～10月31日)

当行役職員への県内観光施設利用促進策として実施いたしました。当行役職員が、旅行目的で県内宿泊施設に宿泊した場合の費用について一定額を補助いたしました。

■「がんばろう！千葉 がんばろう！東北 ちば興銀スペシャルナイター」を開催

(実施日:平成23年7月30日)

QVCマリンフィールドにて県内観光応援イベントを開催いたしました。千葉県や千葉県観光物産協会等と協力し、球場入場者先着1万5千名に観光ガイドブックを配布、県内観光施設の招待チケット等が当たる抽選会も実施するなど、来場者に千葉県の魅力をPRいたしました。

■「がんばろう千葉」キャンペーンについては下記千葉県HPをご参照ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/miryoku/ganbaro/index.html>

当行は、今後も千葉を元気にするための様々な活動を行ってまいります。被害を受けられた皆さまの一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

節電への取組み ～ 全ATMの省電力化対応を実施！～

節電および環境への取組み(CO₂削減)の一環として、店舗内・店舗外全てのATMを省電力モードにて運用しております。標準取引を前提とした算出にて、約25%の消費電力削減が可能となります。

お客さまには、ATMが起動するまで約10秒お待ちいただく場合がございますが、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。



環境への取組み

県内初！グリーンボンド購入で世界銀行から感謝状授与！

地球温暖化対策への貢献として世界銀行（国際復興開発銀行）が新規に発行する「グリーンボンド」(*)を購入し、世界銀行より感謝状をいただきました。グリーンボンドの購入は、創立60周年記念事業の一環として行ったものです。

※「グリーンボンド」とは、地球温暖化によって引き起こされる諸問題に対処する事業を支援するために、世界銀行が発行する債券です。

平成24年2月1日感謝状授与



青柳頭取と世界銀行財務局駐日代表・有馬良行氏

次世代育成への取組み

「エコノミクス甲子園千葉大会」の開催！

県内で3回目となる高校生を対象とした全国高校生金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）千葉大会を、当行本店大講堂にて開催いたしました。

クイズを通して、将来必要となる金融知力を伸ばすきっかけとするためのイベントです。金融経済教育の普及を図るためにNPO法人金融知力普及協会が実施しており、従来同様、当行と千葉銀行と共同で主催いたしました。

平成23年12月18日実施



「子育てお母さん応援講座」開催！～仕事と子育ての両立～

千葉県が推進する「女性の再就職支援」事業の中の一部講座を当行が担当し、再就職をめざす県内の女性を対象に開催いたしました。「職場見学」や「従業員との懇談」等を通して、職業理解の機会を提供し、仕事と子育ての両立をめざす県内の女性の再就職を応援しております。

平成24年3月15日実施



中小企業育成への取組み

「千葉元気印企業大賞」

平成7年度より、フジサンケイビジネスアイ(日本工業新聞社)との共催で、千葉県の活気あふれる中小企業・ベンチャー企業の表彰を通じて地域企業の発展を支援しております。



次世代経営者育成への取組み

ちば興銀「経営塾」

ちば興銀「経営塾」は、地元企業育成支援・後継経営者育成支援の取組みのひとつとして、平成16年9月に設立されました。幅広い視点で経営を捉えていただくための視察会やセミナーを定期的を開催しております。これまでに100名を超える塾生が学び、平成22年10月からは第4期生のプログラムがスタートしております。

最近の活動状況

- 23/11 営業力強化セミナー
- 24/01 新春講演会& 賀詞交歓会
- 24/02 台湾ビジネスセミナー
- 24/03 塾生間企業視察会
- 24/05 台湾ビジネス視察会



地域活性化への取組み

「千産千商2011 がんばろう！千葉 おいしい食べものの直売会」の開催！

当行と聖徳大学短期大学部との間で締結した産学連携協定に基づき実施する取組みのひとつであり、2回目の開催となります。今回は聖徳大学で開催された学園祭『聖徳祭』にて行いました。

当日は、聖徳短大総合文化学科の学生が考案した“千産千消”弁当を、県内弁当製造大手である万葉軒様が商品化し、本学園祭で販売いたしました。また、取引先企業が出展するとともに、チーバくんも登場し、千葉県の魅力ある商品・食材を多くの方にご紹介いたしました。

平成23年11月5日・6日実施



文化・スポーツ活動

「美しい房総」写真展の開催

美しい郷土・風景をお楽しみいただこうと、季節にあわせ、県内写真家の傑作を当行の営業店ロビー等で随時展示しております。



コスモスコンサートの開催

地元の皆さまにクラシック音楽に親しんでいただけるよう、JR千葉駅前広場にて年2回(6月「祝・千葉県民の日」、10月「祝・千葉市民の日」)、ミニコンサートを18年連続で開催しております。



「ちば興銀コスモスセミナー」の開催

「千葉県に関する知識・情報をお客さまと共有する」をコンセプトに、無料公開講座を毎年開催しており、毎回ご好評をいただいております。第14回は平成24年3月に「房総のヒトとモノの流れ」をテーマに開催し、約70名のお客さまが受講されました。



各種スポーツ大会への協賛

平成23年9月に、当行主催による「第22回千葉興業銀行杯親善ゲートボール大会」を、県内ゲートボール愛好家60チーム・約330名の参加により開催いたしました。

また、「千葉県障害者スポーツ大会」への協賛及び選手参加(5月)や、その他県スポーツ振興財団への協賛も行っております。



社会奉仕活動

「小さな親切」運動の推進

当行は、35都道府県が参加する全国的組織「小さな親切」運動の千葉県本部及び事務局として、県内の運動推進に努めております。「小さな親切」を実行した人に贈る「実行章」は、千葉県内で平成23年度(4月～3月)において2,567名が受章されました(累計309千人以上)。

当行行員は全員会員登録しており、清掃等のボランティア活動や寄付・募金活動を実施しております。



地域交流活動への積極的参加

春の県下一斉ゴミゼロ運動に行員・スタッフ及びその家族がボランティア参加しております。(全部室店参加 総数910名)

また、国道14号・357号沿線の16企業・団体に組織される「国道をきれいにする会」に参加し毎月沿道を清掃しております。(平成23年度延べ431名参加)



交通安全意識を啓蒙

当行と千葉日報社が共同で設立した「コスモス交通安全協力会」より、県内新中学一年生へスポークライト(自転車事故防止用反射板)9,000個を贈呈しております(17年間で延べ213,200個)。

また、県の交通安全推進委員会が推進する交通安全運動期間におけるポスターの全店掲示及び、交通安全リボンを全行員・スタッフが着用しております。



寄付活動

行員やお客さまから集めた不要衣料品を千葉県民間病院協会会員の柏戸病院へ寄贈しております。また、全店から集めた古切手等を、千葉市社会福祉協議会ボランティアセンターへ寄贈しております。これらは、障がい者への車椅子購入やボランティア活動資金に利用されております。

当行役職員による募金活動「ともしびの会」より、年末に県内の養護施設等へ浄財を寄贈しております。



『マリーンズ応援団定期2012』発売！(平成24年4月)

当行は、地元金融機関として、千葉ロッテマリーンズを応援しております。
毎年期間限定にて取扱っております恒例の定期預金「マリーンズ応援団定期」の取扱いを開始しております(平成24年8月31日まで)。

この定期預金は、千葉ロッテマリーンズの戦績によりお預入れいただいた定期預金の上乘せ金利(*)が決まるものです。今回で12回目の取扱いとなり、毎回、地元球団である千葉ロッテマリーンズを応援する多くのお客さまに大変ご好評をいただいております。

* 初回適用金利はスーパー定期(お預入額300万円以上はスーパー定期300)1年ものの店頭表示金利が適用されます。
* 詳細については、「商品概要説明書」(当行ホームページにも掲載)をご覧ください。



ちば興銀ポイントサービス「コスモスクラブ」リニューアル！(平成23年6月)

当行に一定のお取引をいただき会員登録されたお客さまに優遇サービスをご提供する「コスモスクラブ」を、平成11年7月からお取扱いしており、これまでもサービス追加等を行ってまいりましたが、このたび全面的に内容の見直しを行い、より多くのお客さまにご利用いただけるサービスとして生まれ変わりました。

新しい「コスモスクラブ」では、個人のお客さまはどなたでもご入会いただけるようになりました。加えて、当行とのお取引内容に応じて獲得したポイントによって、各種手数料の割引・定期預金の金利優遇等の特典をご利用いただけます。

* 詳細については、お近くのちば興銀窓口またはちば興銀テレフォンセンターにお問い合わせいただくか、ちば興銀ポイントサービス「コスモスクラブ」のパンフレットをご覧ください。



「お客さまにやさしい」店づくり

県内金融機関初！カラーユニバーサルデザイン認定を取得した「新型受付番号表示機」を全店に設置！(平成24年3月)

色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすい白文字表示を採用した「新型受付番号表示機」の設置を進め、県内金融機関としては初めて全店へ設置が完了しております。

当行はこれからもお客さまにご利用しやすく、やさしい店づくりをすすめてまいります。

- 「新型受付番号表示機」の特徴(グローリー株式会社製)
- ・ダークブルー地に白文字表示のカラーユニバーサルデザインを採用しております。
- ・番号表示部分が3インチと大きく、見やすい表示となっております。



本パネルはNPO法人カラーユニバーサルデザイン機構から認定されています。



～つないでいこう。これからも～

平成24年3月、おかげさまで創立60周年を迎えました。

ちば興銀は、おかげさまで平成24年3月3日に創立60周年を迎えました。

永年にわたり当行をお引き立ていただいている皆さまに感謝の気持ちをこめ、平成23年10月3日から平成24年9月29日までを周年運動期間として、期間限定定期預金の発売や各種キャンペーンなどを行ってまいります。



60周年記念定期預金・『ハッピーコレクト』発売！

(販売期間:平成23年10月3日～平成24年2月29日)

「60周年」にちなみ、特別金利・年0.06% (税引後0.048%) (*)を適用し、さらに、月ごとに異なるデザインの当行オリジナル「マリーンズプレート」を毎月先着6,000名さまにプレゼントいたしました。

※特別金利の適用は初回預け入れのみ。

60周年記念『オーストラリア・ドル建て外貨預金為替手数料優遇キャンペーン』実施！

(実施期間:平成23年10月3日～平成24年3月30日)

「60周年」にちなみ、通常為替手数料の60%にて「円貨からオーストラリア・ドル建ての外貨預金へのお預入」「オーストラリア・ドル建ての外貨預金から円貨へのお引出し」をいたしました。

60周年記念『教育ローン金利割引キャンペーン』実施！

(実施期間:平成23年11月1日～平成24年4月27日)

キャンペーン期間中に教育ローンをご利用いただくお客さまに対して特別金利を適用し、当行とお取引いただいているお客さまについては、当行との取引に応じてキャンペーン金利からさらに割引いたしました。

60周年記念定期預金・『NEWラッキースクラッチ』発売！

(販売期間:平成23年12月1日～平成24年1月31日)

お預入時に、ちば興銀オリジナルのカタログギフトか金利上乘せ (店頭表示金利に+0.02% (税引後0.016%) のどちらかの特典があたるスクラッチくじをお渡しいたしました。

60周年記念『ガン保障付住宅ローン特別金利キャンペーン』実施！

(実施期間:平成23年12月1日～平成24年6月29日)

新規に当行の住宅ローンをお申込みいただくお客さま、借換えを希望されるお客さま (期限までにお借入れいただける方) を対象に、当行の住宅ローンの金利を店頭金利より割引いたしました。

60周年記念定期預金・『60定期 (ろくまるていき)』発売！

(販売期間:平成24年2月1日～平成24年5月31日)

「60周年」にちなみ、店頭表示金利の6倍の特別金利 (*)を適用いたしました。※特別金利の適用は初回預け入れのみ。



財務諸表

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第90期末(平成24年3月31日現在) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	31,582	預 金	2,117,799
現 金	19,015	当 座 預 金	53,611
預 け 金	12,566	普 通 預 金	986,963
コーロローン	38,000	貯 蓄 預 金	27,363
買入金銭債権	10,777	通 知 預 金	3,855
商品有価証券	163	定 期 預 金	1,030,475
商品国債	78	定 期 積 金	8
商品地方債	84	そ の 他 の 預 金	15,521
有 価 証 券	531,414	譲 渡 性 預 金	6,160
国 債	219,854	借 用 金	5,500
地 方 債	49,466	借 入 金	5,500
社 債	171,835	外 国 為 替	12
株 式	17,446	外 国 他 店 預 り	1
そ の 他 の 証 券	72,811	売 渡 外 国 為 替	10
貸 出 金	1,616,159	そ の 他 負 債	8,410
割 引 手 形	10,923	未 払 法 人 税 等	89
手 形 貸 付	68,581	未 払 費 用	2,165
証 書 貸 付	1,368,473	前 受 収 益	1,108
当 座 貸 越	168,181	給 付 補 て ん 備 金	0
外 国 為 替	2,562	金 融 派 生 商 品	663
外国他店預け	1,140	リ ー ス 債 務	1,290
買入外国為替	980	そ の 他 の 負 債	3,094
取立外国為替	440	退職給付引当金	5,446
そ の 他 資 産	10,605	役員退職慰労引当金	87
前 払 費 用	0	睡眠預金払戻損失引当金	520
未 収 収 益	2,208	支 払 承 諾	20,327
先物取引差入証拠金	3	負 債 の 部 合 計	2,164,264
金融派生商品	911	(純資産の部)	
その他の資産	7,481	資 本 金	57,941
有形固定資産	19,152	資 本 剰 余 金	32,792
建 物	6,012	資 本 準 備 金	32,792
土 地	10,943	利 益 剰 余 金	38,957
リ ー ス 資 産	1,290	利 益 準 備 金	3,007
建設仮勘定	9	自 己 株 式	△64
その他の有形固定資産	896	繰越利益剰余金	35,950
無形固定資産	2,069	評 価・換 算 差 額 等	657
ソフトウェア	1,683	株 主 資 本 合 計	129,628
その他の無形固定資産	386	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	657
繰延税金資産	22,006	評 価・換 算 差 額 等 合 計	657
支払承諾見返	20,327	純 資 産 の 部 合 計	130,285
貸倒引当金	△10,268	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	2,294,549
資 産 の 部 合 計	2,294,549		

第90期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで) 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
経 常 収 益	43,924
資金運用収益	33,097
貸出金利息	27,078
有価証券利息配当金	5,686
コーロローン利息	96
預け金利息	89
その他の受入利息	146
役務取引等収益	7,071
受入為替手数料	1,796
その他の役務収益	5,274
その他業務収益	1,790
外国為替売却益	735
商品有価証券売却益	2
国債等債券売却益	917
金融派生商品収益	134
その他の業務収益	0
その他経常収益	1,966
債却債権取立益	1,124
株式等売却益	177
その他の経常収益	664
経 常 費 用	34,892
資金調達費用	1,521
預金利息	1,393
譲渡性預金利息	3
コーロローン利息	0
債券貸借取引支払利息	0
借入金利息	121
その他の支払利息	3
役務取引等費用	3,513
支払為替手数料	357
その他の役務費用	3,156
その他業務費用	810
国債等債券売却損	263
国債等債券償還損	547
営業経費	25,271
その他経常費用	3,775
貸倒引当金繰入額	1,236
貸出金償却	1,255
株式等売却損	507
株式等償却	14
その他の経常費用	762
経 常 利 益	9,032
特 別 利 益	2
固定資産処分益	2
特 別 損 失	77
固定資産処分損	72
減 損 損 失	5
税引前当期純利益	8,957
法人税、住民税及び事業税	54
法人税等調整額	1,187
法 人 税 等 合 計	1,241
当 期 純 利 益	7,716

第90期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで) 株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
株 主 資 本		自 己 株 式	
資 本 金		当 期 首 残 高	△63
当 期 首 残 高	57,941	当 期 変 動 額	
当 期 変 動 額		自己株式の取得	△0
当 期 変 動 額 合 計	—	当 期 変 動 額 合 計	△0
当 期 末 残 高	57,941	当 期 末 残 高	△64
資 本 剰 余 金		株 主 資 本 合 計	
資 本 準 備 金		当 期 首 残 高	123,331
当 期 首 残 高	32,792	当 期 変 動 額	
当 期 変 動 額		剰余金の配当	△1,419
当 期 変 動 額 合 計	—	当 期 純 利 益	7,716
当 期 末 残 高	32,792	自己株式の取得	△0
資本剰余金合計		当 期 変 動 額 合 計	6,296
当 期 首 残 高	32,792	当 期 末 残 高	129,628
当 期 変 動 額		評 価・換 算 差 額 等	
当 期 変 動 額 合 計	—	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	378
当 期 末 残 高	32,792	当 期 変 動 額	
利 益 剰 余 金		株主資本以外の項目	279
利 益 準 備 金		当 期 変 動 額 合 計	279
当 期 首 残 高	2,723	当 期 末 残 高	657
当 期 変 動 額		評 価・換 算 差 額 等 合 計	
剰余金の配当	283	当 期 首 残 高	378
当 期 変 動 額 合 計	283	当 期 変 動 額	
当 期 末 残 高	3,007	株主資本以外の項目	279
その他利益剰余金		当 期 変 動 額 合 計	279
繰越利益剰余金		当 期 末 残 高	657
当 期 首 残 高	29,937	純 資 産 合 計	
当 期 変 動 額		当 期 首 残 高	123,710
剰余金の配当	△1,703	当 期 変 動 額	
当 期 純 利 益	7,716	剰余金の配当	△1,419
当 期 変 動 額 合 計	6,012	当 期 純 利 益	7,716
当 期 末 残 高	35,950	自己株式の取得	△0
利益剰余金合計		株主資本以外の項目	279
当 期 首 残 高	32,660	当 期 変 動 額 合 計	6,575
当 期 変 動 額		当 期 末 残 高	130,285
剰余金の配当	△1,419		
当 期 純 利 益	7,716		
当 期 変 動 額 合 計	6,296		
当 期 末 残 高	38,957		

第90期末(平成24年3月31日現在)
連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	31,796	預 金	2,110,426
コールローン及び買入手形	38,000	譲渡性預金	6,160
買入金銭債権	10,777	借 用 金	13,819
商品有価証券	163	外 国 為 替	12
有 価 証 券	531,056	そ の 他 負 債	13,465
貸 出 金	1,610,425	退職給付引当金	5,606
外 国 為 替	2,562	役員退職慰労引当金	141
そ の 他 資 産	30,896	睡眠預金払戻損失引当金	520
有形固定資産	19,186	支 払 承 諾	27,231
建 物	6,043	負債の部合計	2,177,384
土 地	10,943	(純資産の部)	
リース資産	42	資 本 金	57,941
建設仮勘定	9	資本剰余金	32,792
その他の有形固定資産	2,146	利益剰余金	41,735
無形固定資産	2,360	自己株式	△64
ソフトウェア	1,911	株主資本合計	132,406
リース資産	58	その他の有価証券評価差額金	669
その他の無形固定資産	390	その他の包括利益累計額合計	669
繰延税金資産	22,469	少数株主持分	1,602
支払承諾見返	27,231	純資産の部合計	134,678
貸倒引当金	△14,863	負債及び純資産の部合計	2,312,063
資産の部合計	2,312,063		

第90期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額
経 常 収 益	52,416
資金運用収益	33,034
貸出金利息	27,108
有価証券利息配当金	5,593
コールローン利息及び買入手形利息	96
預け金利息	89
その他の受入利息	146
役務取引等収益	7,861
その他業務収益	1,790
その他経常収益	9,730
償却債権取立益	1,187
その他の経常収益	8,542
経 常 費 用	42,556
資金調達費用	1,641
預金利息	1,390
譲渡性預金利息	3
コールマネー利息及び売渡手形利息	0
債券貸借取引支払利息	0
借入金利息	236
その他の支払利息	9
役務取引等費用	2,497
その他業務費用	810
営業経費	25,495
その他経常費用	12,112
貸倒引当金繰入額	1,997
その他の経常費用	10,114
経 常 利 益	9,859
特 別 利 益	2
固定資産処分益	2
特 別 損 失	78
固定資産処分損	73
減 損 損 失	5
税金等調整前当期純利益	9,784
法人税、住民税及び事業税	412
法人税等調整額	1,155
法人税等合計	1,568
少数株主利益調整前当期純利益	8,215
少数株主利益	149
当期純利益	8,066

第90期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
株 主 資 本		その他の包括利益累計額	
資 本 金		その他有価証券評価差額金	
当期首残高	57,941	当期首残高	386
当期変動額	—	当期変動額	—
当期変動額合計	—	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	282
当期末残高	57,941	当期変動額合計	282
資本剰余金		当期末残高	669
当期首残高	32,792	その他の包括利益累計額合計	386
当期変動額	—	当期首残高	386
当期変動額合計	—	当期変動額	—
当期末残高	32,792	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	282
利益剰余金		当期変動額合計	282
当期首残高	35,088	当期末残高	669
当期変動額	—	少 数 株 主 持 分	
剰余金の配当	△1,419	当期首残高	1,408
当期純利益	8,066	当期変動額	—
当期変動額合計	6,647	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	194
当期末残高	41,735	当期変動額合計	194
自己株式		当期末残高	1,602
当期首残高	△63	純 資 産 合 計	
当期変動額	—	当期首残高	127,554
自己株式の取得	△0	当期変動額	—
当期変動額合計	△0	剰余金の配当	△1,419
当期末残高	△64	当期純利益	8,066
株主資本合計		自己株式の取得	△0
当期首残高	125,759	株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	477
当期変動額	—	当期変動額合計	7,124
剰余金の配当	△1,419	当期末残高	134,678
当期純利益	8,066		
自己株式の取得	△0		
当期変動額合計	6,646		
当期末残高	132,406		



役員・株式の状況

役員 (平成24年6月28日現在)

取締役頭取・CEO	青柳	俊一
取締役副頭取・COO	梅村	星児
専務取締役・専務執行役員	星野	智史
常務取締役・常務執行役員	田中	宏
常勤監査役	安田	達央
常勤監査役	田仲	直樹
監査役	佐藤	英夫
監査役	原口	秀夫

(注) 監査役佐藤英夫氏および原口秀夫氏は、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2にいう独立役員であります。

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

1 株式数

株式の種類	発行可能株式総数	発行済株式の総数
普通株式	138,750千株	50,722千株
第一回第一種優先株式	1,250千株	1,250千株
第二回第二種優先株式	5,000千株	5,000千株
第三回第三種優先株式	35,000千株	17,150千株

2 株主数

普通株式	11,816名
第一回第一種優先株式	2名
第二回第二種優先株式	2名
第三回第三種優先株式	1名

3 大株主

株式の種類	氏名又は名称	持株数 (千株)	持株比率 (%)
普通株式	(株)みずほコーポレート銀行	4,791	9.45
	(株)みずほ銀行	4,791	9.45
	明治安田生命保険(相)	2,158	4.25
	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,791	3.53
	(株)損害保険ジャパン	1,588	3.13
	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,410	2.78
	坂本飼料(株)	1,249	2.46
	みずほ信託銀行(株)	926	1.82
	千葉興業銀行行員持株会	718	1.41
	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4)	646	1.27
第一回第一種優先株式	(株)みずほコーポレート銀行	625	50.00
	(株)みずほ銀行	625	50.00
第二回第二種優先株式	株式会社みずほコーポレート銀行	2,500	50.00
	株式会社みずほ銀行	2,500	50.00
第三回第三種優先株式	株式会社整理回収機構	17,150	100.00

- (注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
3. 普通株式の持株比率は自己株式(54,184株)を控除して、算出しております。

株式のご案内

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 配当受領株主確定日 期末配当:毎年3月31日
中間配当:毎年9月30日
- 定時株主総会 毎事業年度終了後3か月以内に開催
- 基準日 定時株主総会については、毎年3月31日
その他必要あるときはあらかじめ公告する一定の日
- 単元株式数 100株
- 公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞
なお、決算公告につきましては、
当行ホームページの下記アドレスに
掲載いたします。
<http://www.chibakogyo-bank.co.jp/toushi/ir/koukoku.html>
- 株式事務取扱場所
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店 証券代行部

■ 単元未満株式の買取請求について

単元未満株式をご所有の場合、その単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度(買取制度)がございますので、どうぞご利用ください。

特別口座に記録された株式の買取請求については、下記株主名簿管理人(特別口座管理機関)において受付けております。また、証券会社等の口座に記録された株式の買取請求については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

■ 特別口座株式のご売却について

特別口座にて管理されている単元株式を売却されるには、事前に証券会社等の口座を開設し、その後振替手続を行っていただく必要があります。お手続き等の詳細は下記株主名簿管理人(特別口座管理機関)にお問い合わせください。

株主名簿管理人(特別口座管理機関)

みずほ信託銀行株式会社

■ お問合せ先(郵便物送付先)

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324

株主様のご住所・お名前等に関する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。

株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



千葉興業銀行

〒261-0001 千葉市美浜区幸町二丁目1番2号

TEL.043-243-2111

<http://www.chibakogyo-bank.co.jp/>